

第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 ワークショップ 概要書

ワークショップ名	薬剤師のためフィジカルアセスメント・その学習法と進め方
開催の目的	<p>薬剤師による身体所見「フィジカルアセスメント」が、今注目されています。</p> <p>長崎大学病院では、フィジカルアセスメントコース（1年間）を設立し、3年目を迎えています。このワークショップでは、薬剤師の先生方の生涯教育の充実させるために、フィジカルアセスメントのコースの構築の仕方、フィジカルアセスメントの勉強の仕方などを中心学びます。</p> <p>また、医師や看護師がどのように関わると成功するのかをお話したいと思います。</p>
対象	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 診療所医師 <input checked="" type="checkbox"/> 病院勤務医 <input type="checkbox"/> 初期研修医 <input checked="" type="checkbox"/> 後期研修医 <input checked="" type="checkbox"/> 歯科医師 <input checked="" type="checkbox"/> 薬剤師 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> プライマリ・ケアに関する研究者 </p>
定員	定員： 42名 ※机の配置は全て島組（6人/1島）
講師名	<p>司会・講師 浜田 久之 （長崎大学病院 医療教育開発センター）</p> <p>講師 中桶 了太 （長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構）</p> <p> 北原 隆志 （長崎大学病院 薬剤部）</p> <p> 高橋 優二 （長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構）</p>
概要	<p>薬剤師の仕事は調剤して薬を渡すだけだと思いませんか？</p> <p>病院や在宅医療では聴診器などを使って患者さんの体の状態を調べる「フィジカルアセスメント」を薬剤師が実施しているところがあります。チーム医療を行う一員として、薬剤師が、問診、視診、聴診、触診などで患者を把握することは、患者さんやチームのために貢献できることになるのかもしれない。</p> <p>このワークショップでは薬剤師のためのフィジカルアセスメントの基本について、双方向の対話形式で下記を学びます。</p> <p>①なぜ、フィジカルアセスメントが必要か。</p> <p>②コースを設立する場合、どのような学習内容がいいのか。</p> <p>③コースを開始する場合、どのような学習方法がいいのか。</p> <p>④先進例はどのように運営されているのか。</p> <p>自分の病院や診療所にフィジカルアセスメントを取り入れたい！ なんか、おもしろそうだ！ と思われる方はぜひ、ご参加ください！</p>